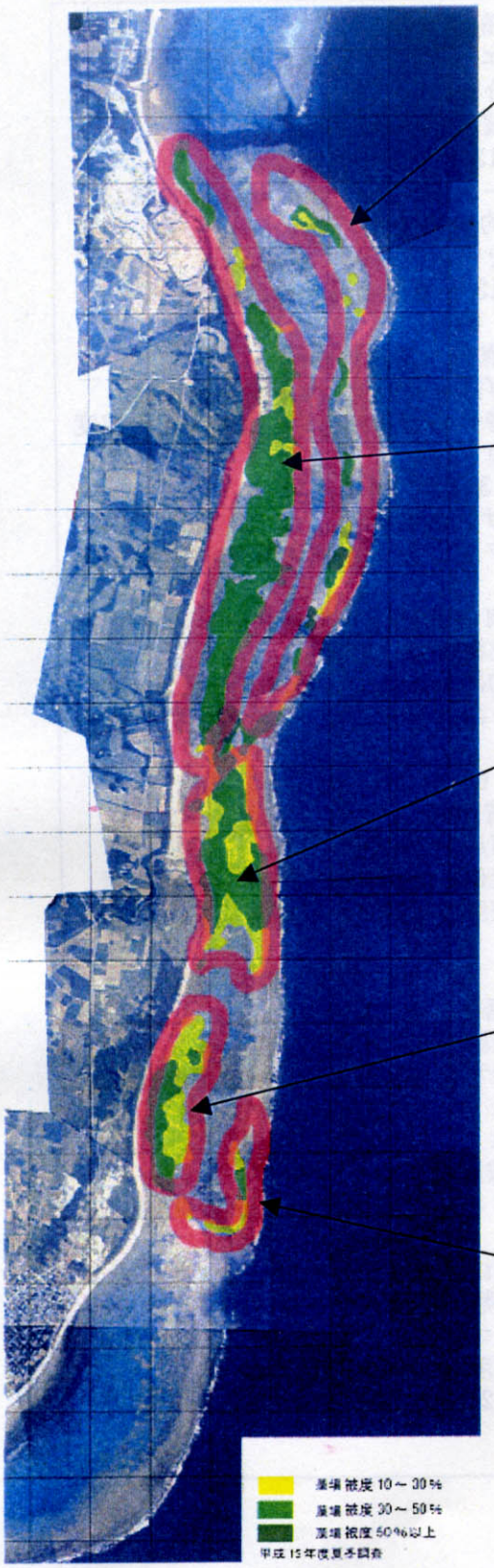

①リーフエッジガラモ場域
- 大潮干潮時干出
- ホンダワラ類やラッパモク、カサモク等
- リーフエッジ付近の浅所から礁池内の深所にかけて水深が増すごとに減少する。
- 経年的にも季節的にも生育状況が大きく変化する
- St.4,6

②海草藻場濃生域
- 被度30%以上の海草藻場が発達
- リュウキュウスガモ、ベニアマモ、リュウキュウアマモ等を中心とした群落
- 生育範囲に変化なし
- St.藻3･4･5

③海草・ガラモ混生域
- 轟川河川水影響範囲で、礁池の水深が浅い。
- 転石や岩盤、マイクロアトールを基盤としたガラモ場が形成
- 砂地では海草類がパッチ状に分布
- St.藻2、追2

④海草藻場形成域
- ②ほど被度は高くない
- ワタンジの存在が沖からの波浪を軽減
- 分布状況ほぼ横ばい
- St.藻1

⑤リーフエッジガラモ場域
- 上記①とほぼ同様にガラモ場形成

図－6.12.2(4)　海草藻場の分布